

科目名	世界と日本I		担当教員	武井 寛	
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	
期待される学修成果					
アクティブ・ラーニングの要素	PBL(課題解決型学習)				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 世界と日本の関係を歴史的手法で多角的に学び、基礎的な知識を身につけることができる。</li> <li>2. 係争点を検討することで多様な立場の意見に耳を傾け、自分の意見を発信する能力を鍛えることができる。</li> <li>3. リアクション・ペーパーを通して、文章作成能力や自分の考えをアウトプットする技術を向上することができる。</li> </ol>				
授業の概要	<p>本講義は物事が複雑に絡み合いながら進展するグローバル社会の中で、文化交流という観点から世界と日本の関係を歴史的に検討する。世界の中で日本はどのような存在であるのか、また日本の中にある世界とは何かを考えていく。授業の中では文化がどのように伝播、または再伝播していくか注目する。異文化を理解する上で、日本は他者をどのように理解してきたか、また世界の国々は日本をどのように見ていたのか考えていきたい。受講生には現状がどうなっているのか自ら調べてグループ・ディスカッションを行い、発表する機会も与えることで理解を深めてもらいたい。</p>				

授業計画	
第1回	オリエンテーション
第2回	開国期の世界と日本
第3回	海を渡った西洋人と日本人
第4回	日本の海外進出
第5回	日本人の北米への移動
第6回	日本人の中南米への移動
第7回	海外文化の日本への浸透
第8回	核の恐怖
第9回	パールハーバーの記憶
第10回	戦争の記憶
第11回	観光文化
第12回	移民と難民の国際比較
第13回	日本の中のアメリカ
第14回	海外における日本文化
第15回	期末試験とまとめ

事前学修		毎回テーマに関するリーディング・アサシメント（プリント資料）を配布する。授業日までに必ず事前に読んでおくこと。
事後学修		授業最後の時間に書くリアクション・ペーパー（初回の授業で説明する）にその日の授業の内容に関する問題と疑問点や考えさせられたことを書く。授業で配布するプリントを再度読んで、理解を深めておく。毎回テーマごとに参考文献を提示するので、関心のあるテーマは是非読み進めてもらいたい。
フィードバックの方法		毎回のリアクション・ペーパーに対するフィードバックをフィードバックの日に行い、質問や疑問に対するコメント及びポイント解説を行う。さらに、受講生の関心をもとにディスカッションを行う。

補足事項	教科書は指定しないが、毎回授業前に読んでおくリーディング・アサシメントを各自で読んでおく。
------	---

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
なし	なし	なし	なし	なし
参考資料	<p>日本移民学会編『日本人と海外移住－移民の歴史・現状・展望－』明石書店、2018年。          南川文里『アメリカ多文化社会論－「多からなる」の系譜と現在－[新版]』2022年。          吉見俊哉『アメリカ・イン・ジャパ－ハーバード講義録－』岩波新書、2025年。          李里花編『朝鮮籍とは何か－トランスナショナルの視点から－』明石書店、2021年。</p>			

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価	60%	期末試験
上記以外の試験・平常点評価	40%	授業参加度、リアクション・ペーパー